

# 楽しく美しい まちづくり通信…④(47)



伝統を守り伝える  
**高村サツさん** (68歳)  
(米沢字荒谷)

「おしら様」の起源は定かではありませんが、数百年もの間、人びとによって信仰され、受け継がれてきた代表的な民間信仰の一つです。

おしら様は、東北地方を中心とし、県内でも広く信仰され、蚕の神様、目の神様などとして旧家

にまつられていることが多いようです。特に、養蚕が盛んに行われていた地方に多く残っています。

養蚕は、市内でも昭和四十年ころまで広く行われていましたが、現在は斗米地区などの一部の地域でみられるだけになります。

一般的には、おしら様と呼ぶのが普通ですが、おしら神とかおしら仏などと呼ぶところもあります。

高村さん宅には、いつの時代のものか分かりませんが、二百年以上前から代々伝えられてきました。

一般的におしら様のお祭りは、旧暦の一月十六日に行われています。おしら様におせんばくを着させて、だっこしたり、子供達におんぶさせてその日一日おしら様と遊びます。身につけたおせんだくは、赤い色を主体としたもので、おしら様がとてもよろこぶ色と言われています。

十年ぐらい前、市内のある「いたこ」に口寄せをお願いしたところ、おしら様は「おせんだくと子供におんぶしてもらうのが

たという、おしら様が四体まつらであります。桑の木と伝えられているご神体におせんだく（着物）をたくさん身につけた高さ三十三センチ位のものです。うち二体は、昔、高村さんの住んでいる地区で火事があり、火を嫌うおしら様が逃げ出し、家の脇にある大きなサワラの木に、とまつて泣いていたといいます。その後、この木は、神がやどつたご神木として現在でも大切にされています。

嬉しい、でも最近は子供達が少なくなつておんぶしてくれないので寂しい」と口寄せがありました。

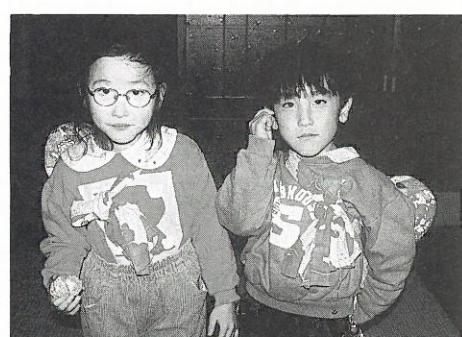
今は、孫や親戚の子供が来て遊んでくれます。昔と違つて、子供が少なくなつたから……おしら様もわかるんですね」と高村さんは言います。

## 受け継がれて数百年

だっこですよ。今は何でも食べられる時代になつたけど、これからもこの日だけは、今までどおり続けたい」と話してくれました。

この日、高村さんの家では、集まつてくれた親戚の人達に、精進料理でもなします。一日中、飲んで食べて歌つて、おしら様と過ごします。

「精進料理も昔は、ごちそう



おんぶして遊ぶ子ども

31日	30日	29日	28日	27日	26日	25日	24日	23日	22日	21日	20日	19日	18日	17日	16日	15日	14日	13日	12日
(月)	(日)	(日)	(土)	(金)	(木)	(水)	(火)	(日)	(土)	(日)	(水)	(木)	(火)	(月)	(日)	(土)	(金)	(木)	(水)

票日 (各投票所)、世界氣象デー

放送記念日

春分の日

市民生活相談 (市民相談室)

3月11日～4月10日

こよみ



★3月★